

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（2月7日-13日）の新規陽性者数は、3,856人（先々週 4,344人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は0.86 [最小値0.44-最大値1.10]、このうち那覇市は0.86 [0.44-1.16]でした。また、宮古は1.23 [0.54-2.79]、八重山は1.16 [0.62-2.56]でした（図1）。沖縄本島は緩徐に減少していますが、離島では増加に転じています。

^{*1}：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10歳未満が711人（18%）と最多で、30代621人（16%）、40代547人（14%）と続きます（図2）。90歳以上を除くすべての年代において減少しています。

幼年・若年層

学校別では、保育園・幼稚園児186人、小学生452人、中学生117人、高校生99人でした。

保健所による疫学調査によると、小学生の推定感染経路は、家庭200人（44%）、友人25人（5%）、学校12人（3%）、学童クラブ10人（2%）、不明197人（44%）でした。また、中学生の推定感染経路は、家庭52人（44%）、友人7人（6%）、学校1人（1%）、不明55人（47%）でした（図3）。

保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部185人（先々週249人）、中部1,386人（先々週1,712人）、那覇市824人（先々週954人）、南部1,106人（先々週1,165人）、宮古141人（先々週94人）、八重山168人（先々週131人）でした。

北部、中部、那覇市で減少が続いていますが、南部は下げ止まり、宮古、八重山では増加しています（図4）。なお、県外からの渡航者は41人（先々週46人）でした。

人口1万人以上の市町村別（人口10万人あたり7日間合計）では、多い順に石垣市299、与那原町229、北谷町179でした（図5）。石垣市では、活動性の高い30代、40代における感染が増加しており、今後も拡大する可能性があります。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（2月13日時点）で334人と1週間前より45人減少しています。酸素投与など中等症患者は211人と1週間前より35人減少しています。一方、気管挿管など重症患者は5人と1週間前より3人増加しています。この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が121人おられ、1週間前より42人減少しています（図6）。

第5波との比較

昨年の第5波にあたる2021年8月1日から31日までに、主にデルタ株によると考えられる18,157人の感染を診断し、2,193人が入院し、61人が死亡しています。入院患者が40代、50代の壮年層に集中している一方で、高齢者の感染そのものが少なく、入院受療率が高いものの実数は限

られていました（図7）。

今年の第6波における2022年1月1日から31日までに、主にオミクロン株によると考えられる32,749人の感染を診断し、1,271人が入院し、20人が死亡しています。若年・壮年層の入院は陽性者の5%以下と少ない一方で、80代以上の高齢者では40%近くが入院しています（図8）。

年齢階級別に比較すると、すべての年代において昨年8月よりも今年1月が多く、とくに20代と高齢者で多数の陽性者を認めています（図9）。90歳以上では3倍を超えており、高齢者施設における集団感染の影響が考えられます。

若者の感染を確認したときの入院受療率は、オミクロン株において大きく低下したため、第6波

では入院患者数が減少しています。しかし、80代以上の感染を確認したときの入院受療率は、デルタ株とオミクロン株では大きな差は認めておらず、多くの高齢者が感染したことにより入院患者数も増加しています。このため、高齢者の入院ならではの合併症への対応、身体介護、認知症への対応などが求められ、第6波では医療機関への負荷が高まっています。

ただし、全年齢において、デルタ株と比してオミクロン株の致死率は低くなっています。オミクロン株の病原性が低い可能性もありますが、ワクチン接種の推進、人工抗体薬の早期投与、巡回診療による施設支援などの効果も考えられます。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、1月9日から実施されている重点措置について、2月20日までに解除することが検討されています。沖縄本島における流行は下げ止まっていますが、小児を除く若年層において減少が続いており、再流行の兆しとは言えません。一方、宮古、八重山では、若者層を中心として増加に転じていることから、このまま再流行へと移行する可能性があります。

現在も高いレベルでの流行は続いていることから、重点措置を解除した場合には再流行をきたすリスクがあります。このため完全な活動再開は困難であり、たとえば会食については同居する家族や親しい人に限るなど、個別に感染対策を保つことが必要です。

また、本土では大きな流行が続いているため、帰省や出張などで渡航者を受け入れる際には、事前に検査を受けて陰性を確認するように求めてください。渡航者を交えた多人数での会食については、できるだけ控えていただくようお願いします。

入院患者数については減少傾向が続いていることから、医療ひっ迫は徐々に改善してきています。

ただし、高齢者施設での集団感染は散発しており、引き続き感染対策を強化するとともに、施設内療養者のための支援体制を維持していくことが求められます。そして、高齢者へのワクチン接種をさらに推進していくことが必要です（図10）。

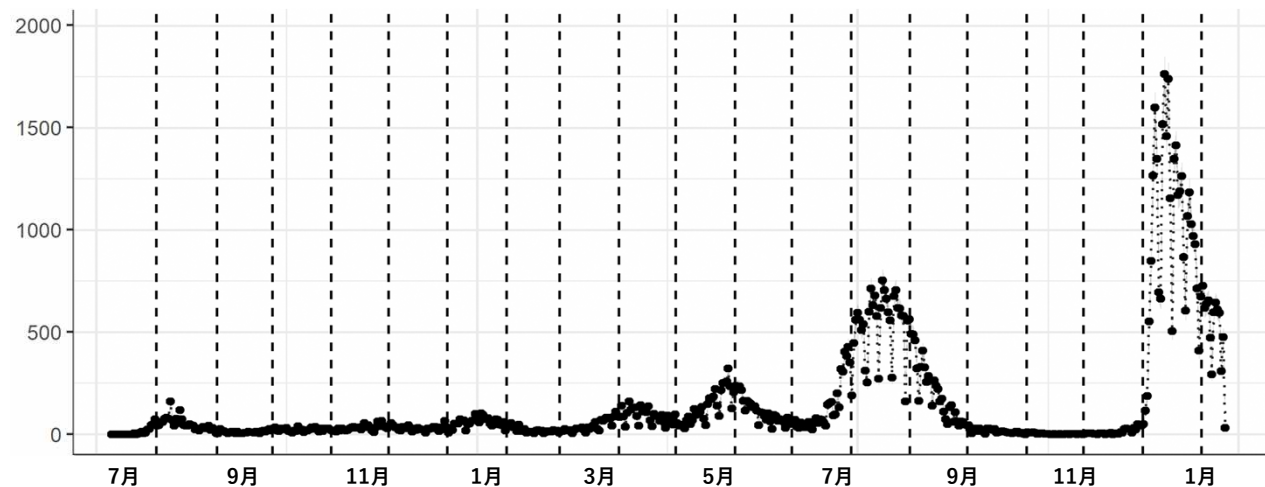
今週の新規陽性者数は、3,000-4,000人と見込みます。また、今週末までに入院患者数は300-330人に至り、うち重症患者数は3-4人と見込みます（図11）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）

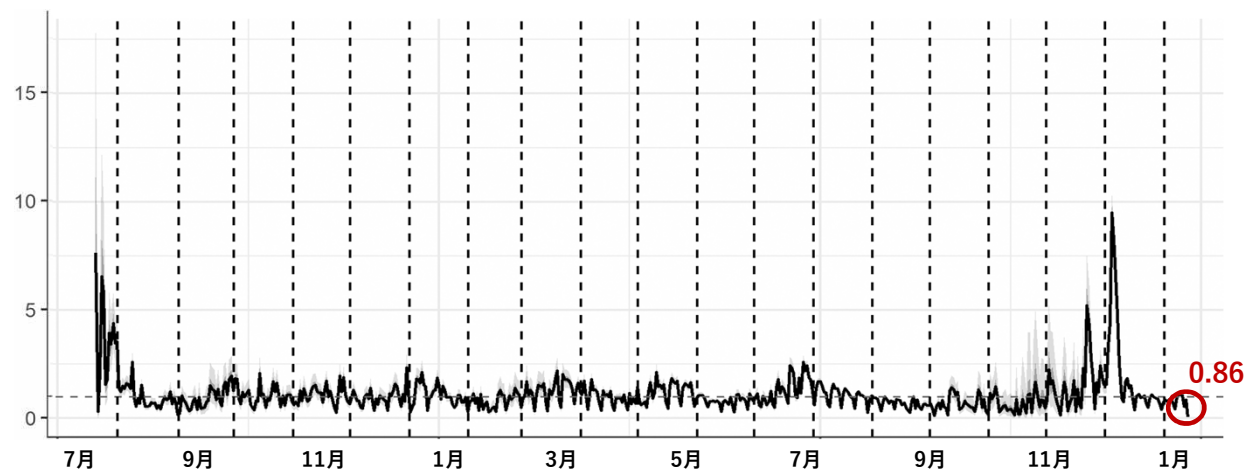


図2 性年齢階級別にみる陽性者数（2月7日～2月13日）

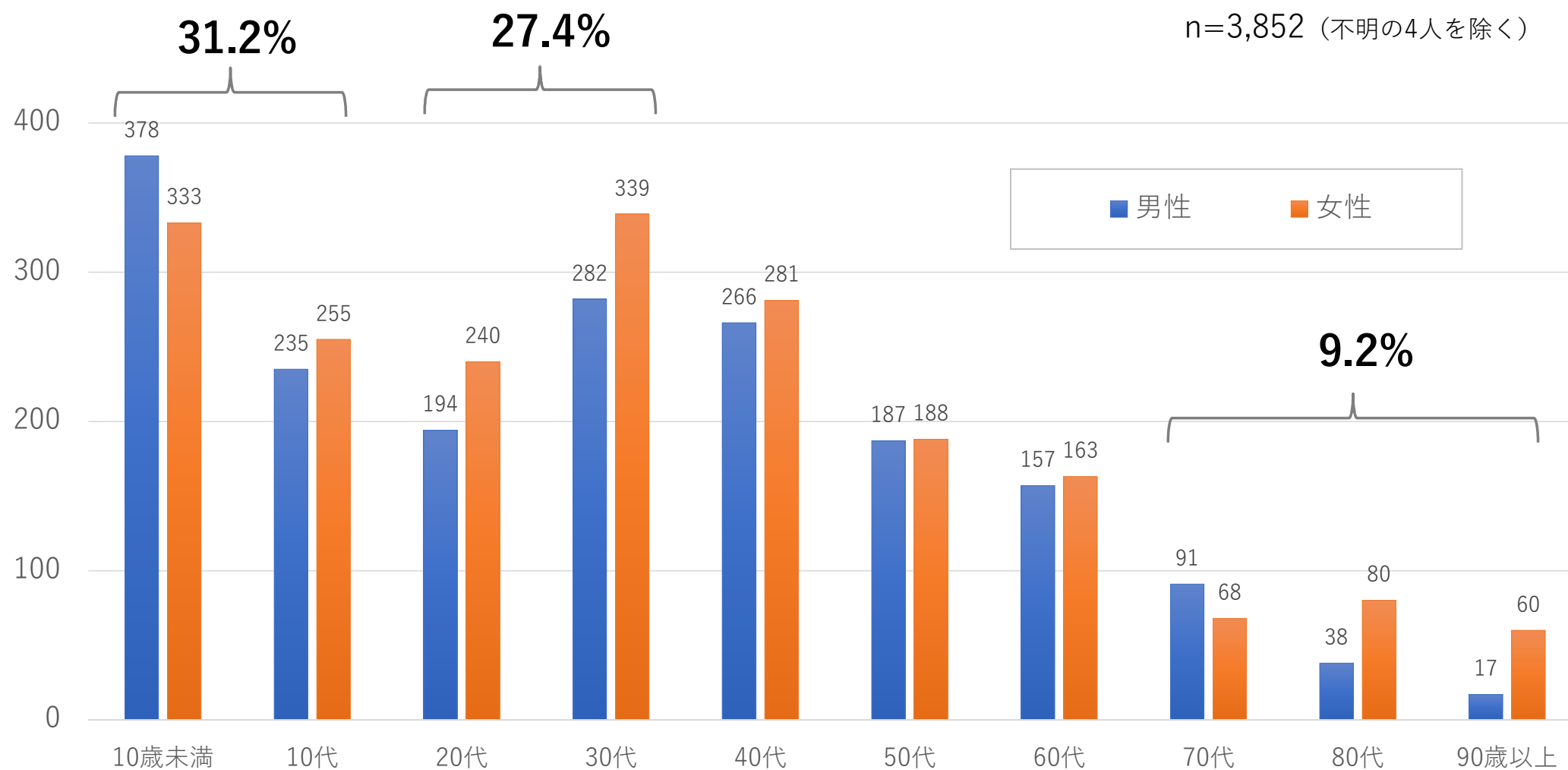
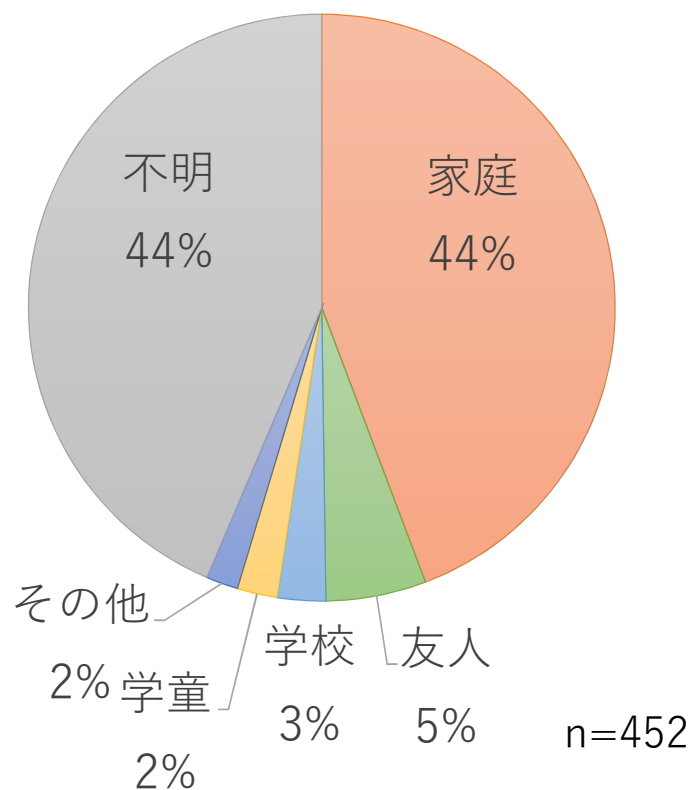


図3 小学生と中学生における推定感染経路（沖縄県）

2022年2月7日～13日

小学生



中学生

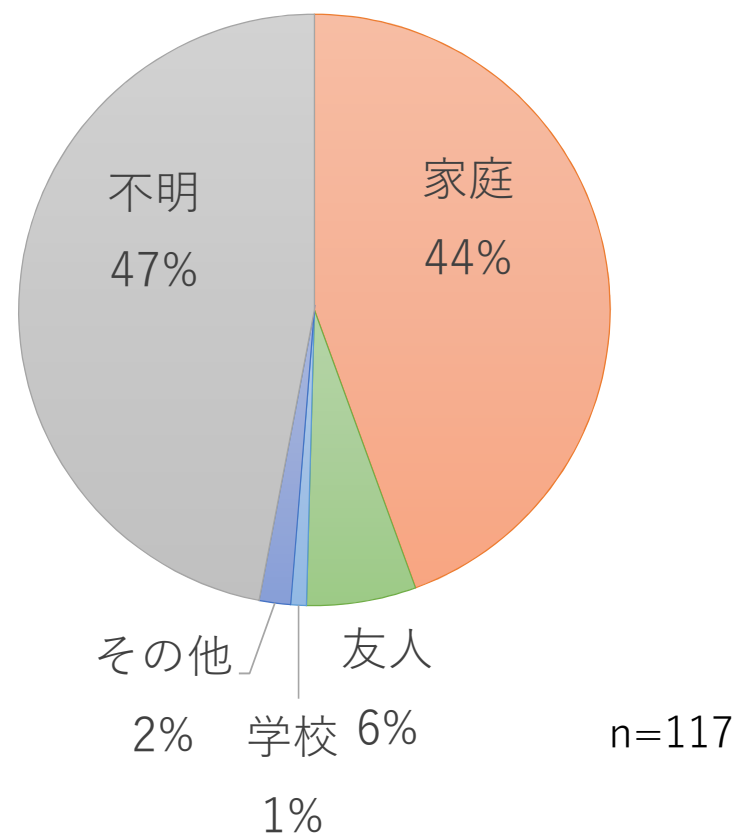


図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

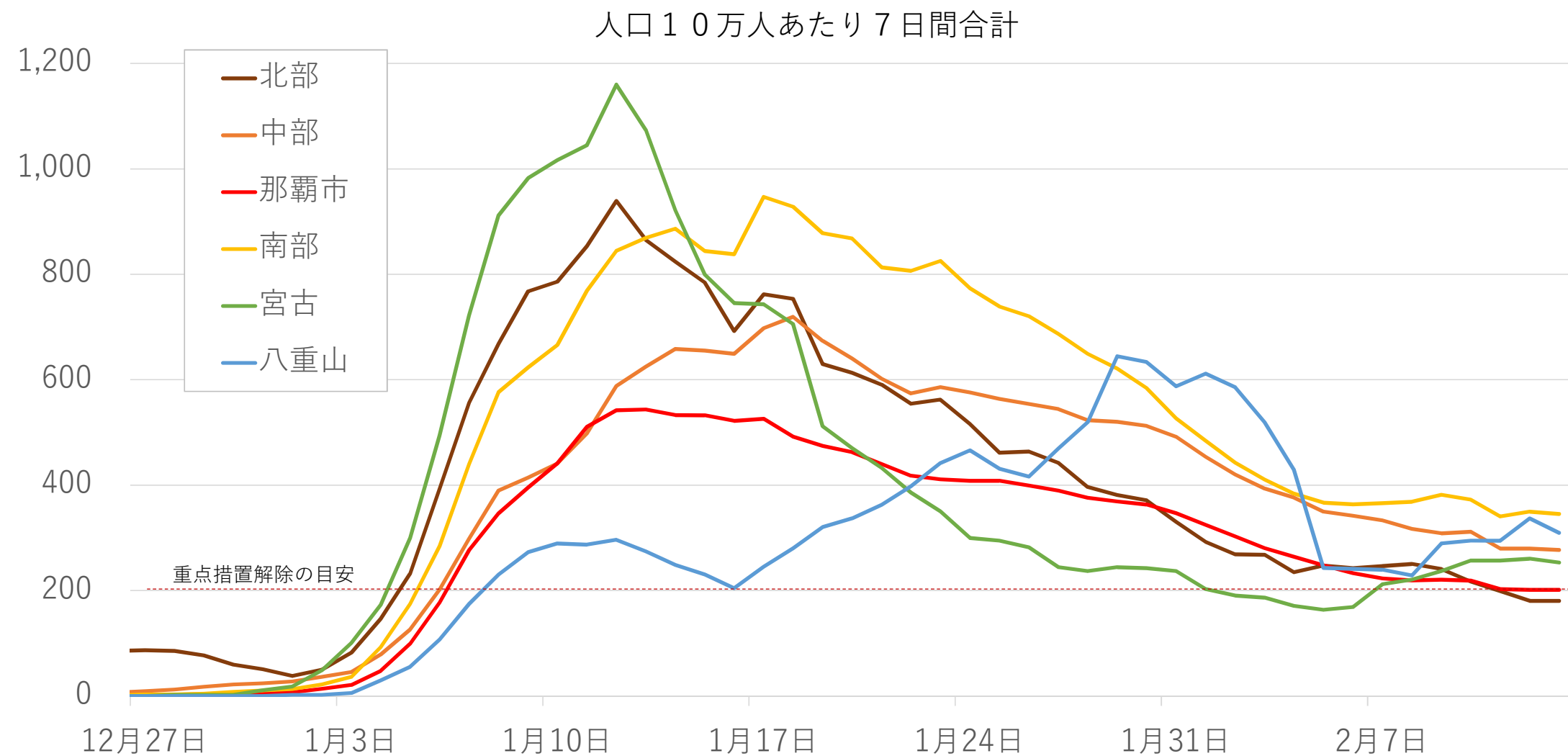


図5 沖縄県・市町村別ヒートマップ（2月7日～2月13日）

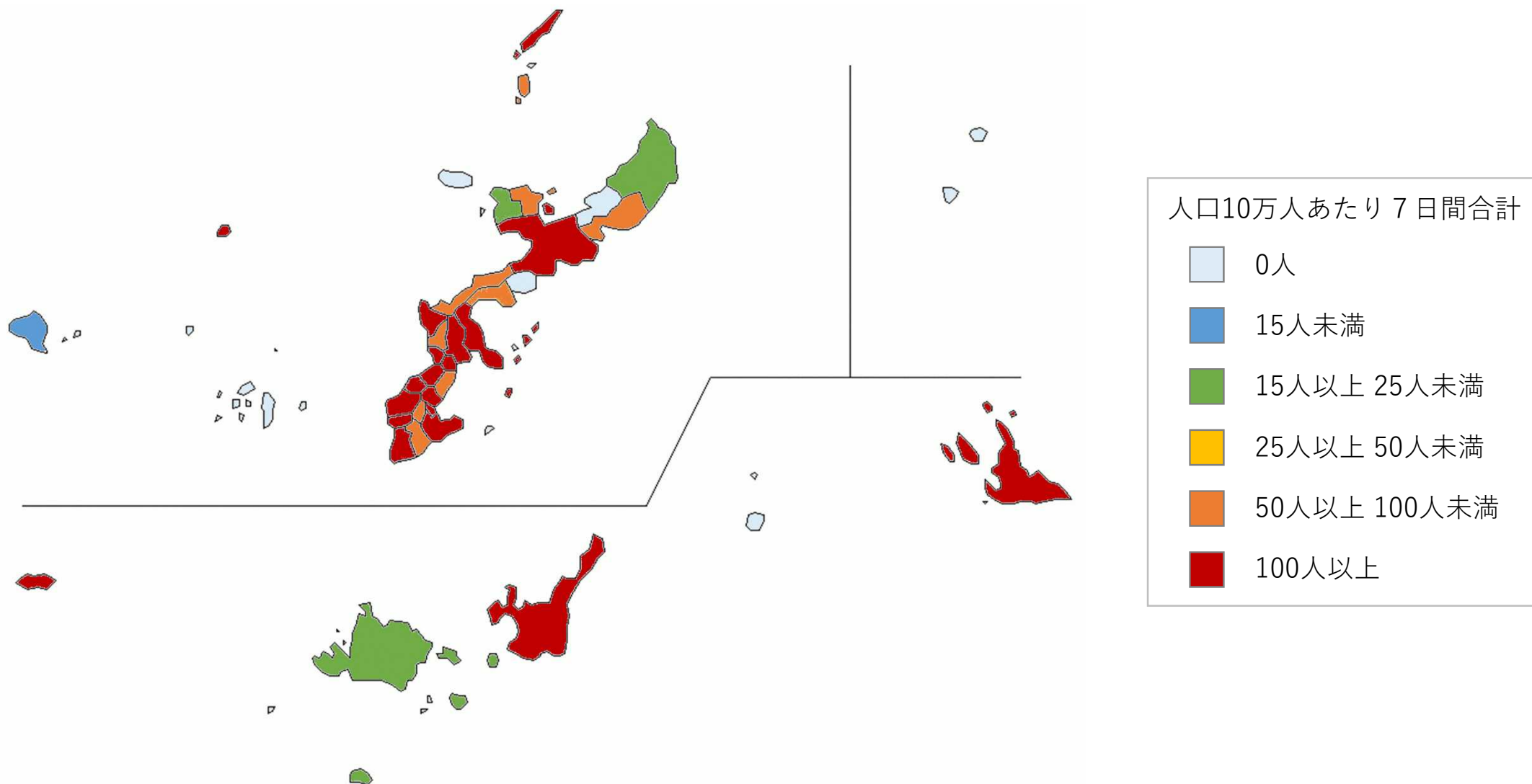


図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

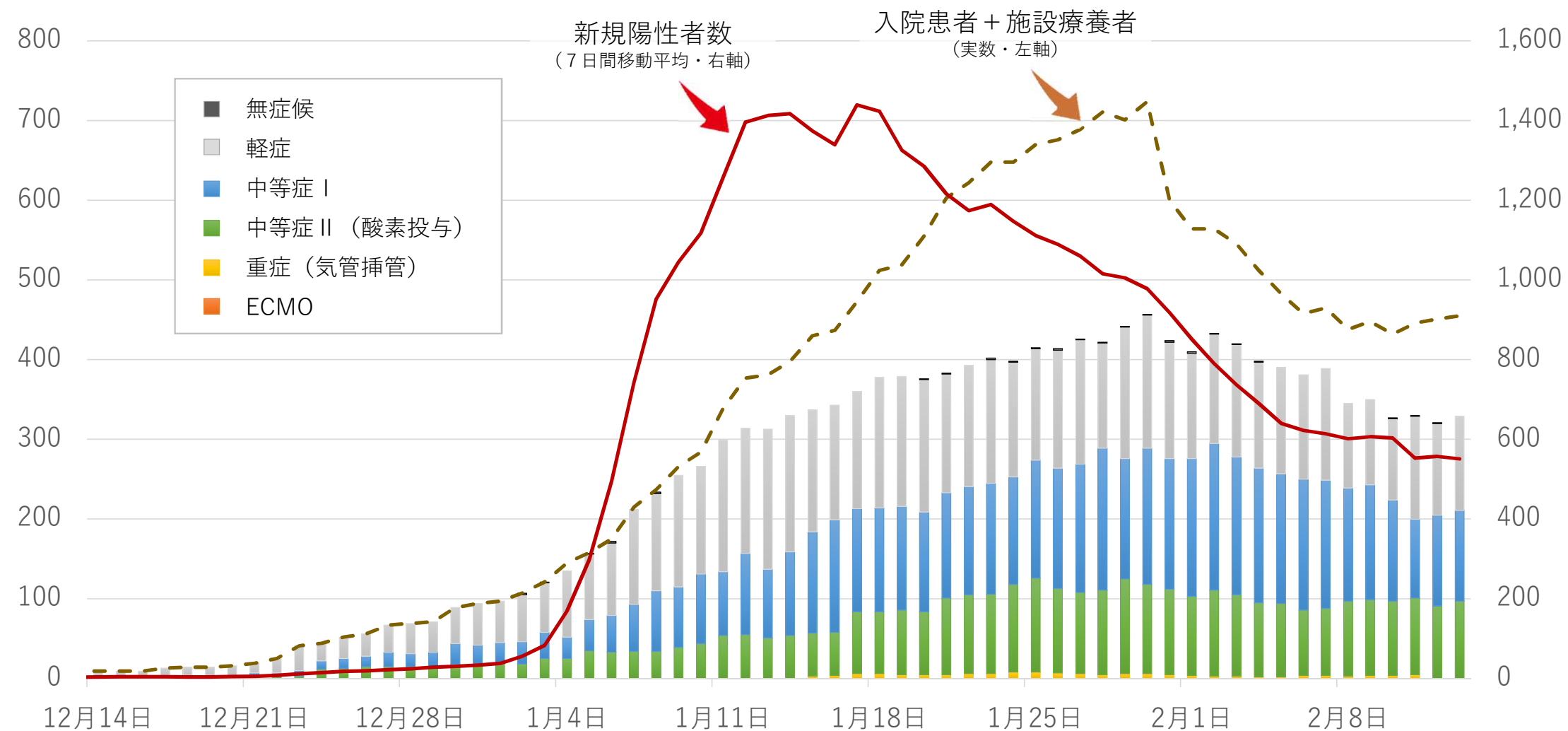


図7 年齢階級別にみる入院患者数、入院受療率、致死率

2021年8月1日から31日までに診断確定した患者18,157人について分析

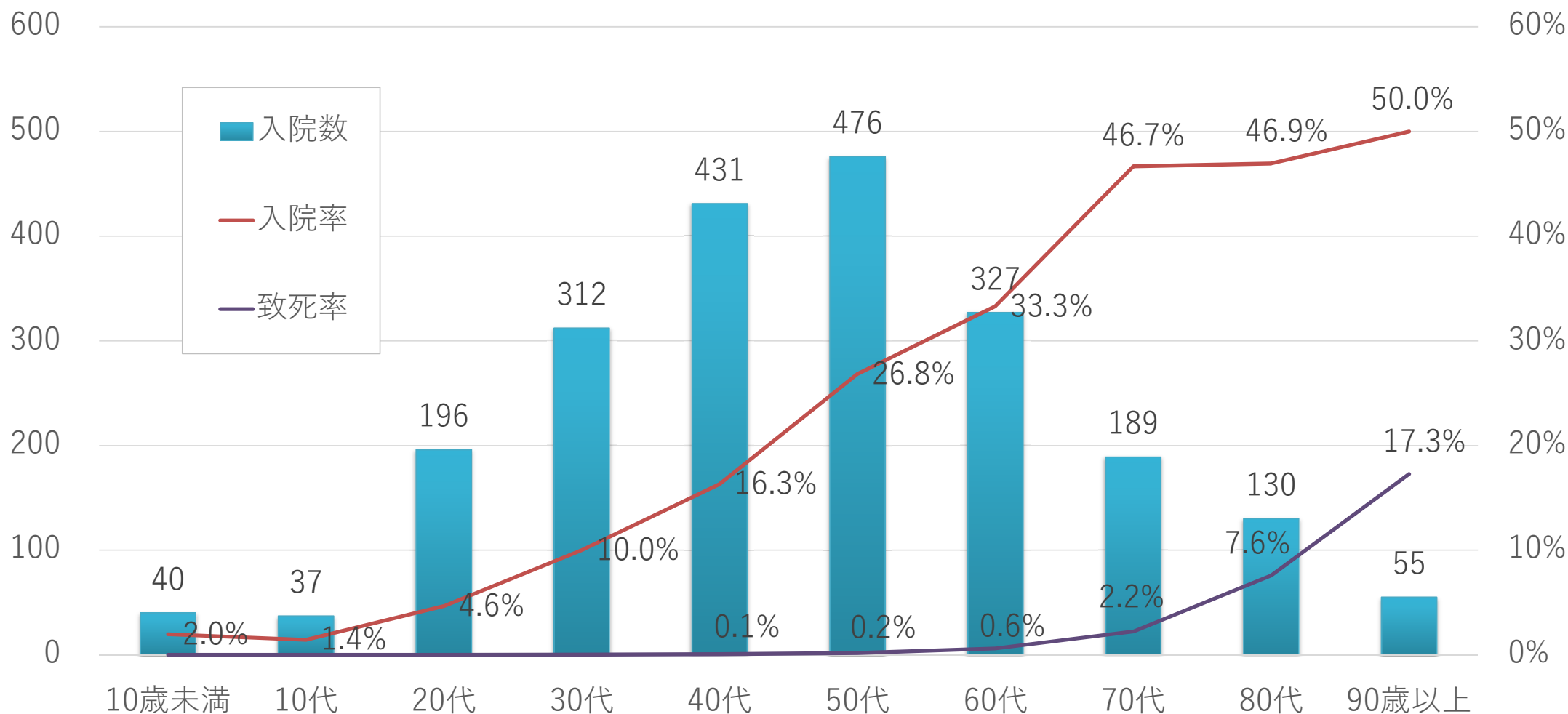


図8 年齢階級別にみる入院患者数、入院受療率、致死率

2022年1月1日から31日までに診断確定した患者32,749人について分析

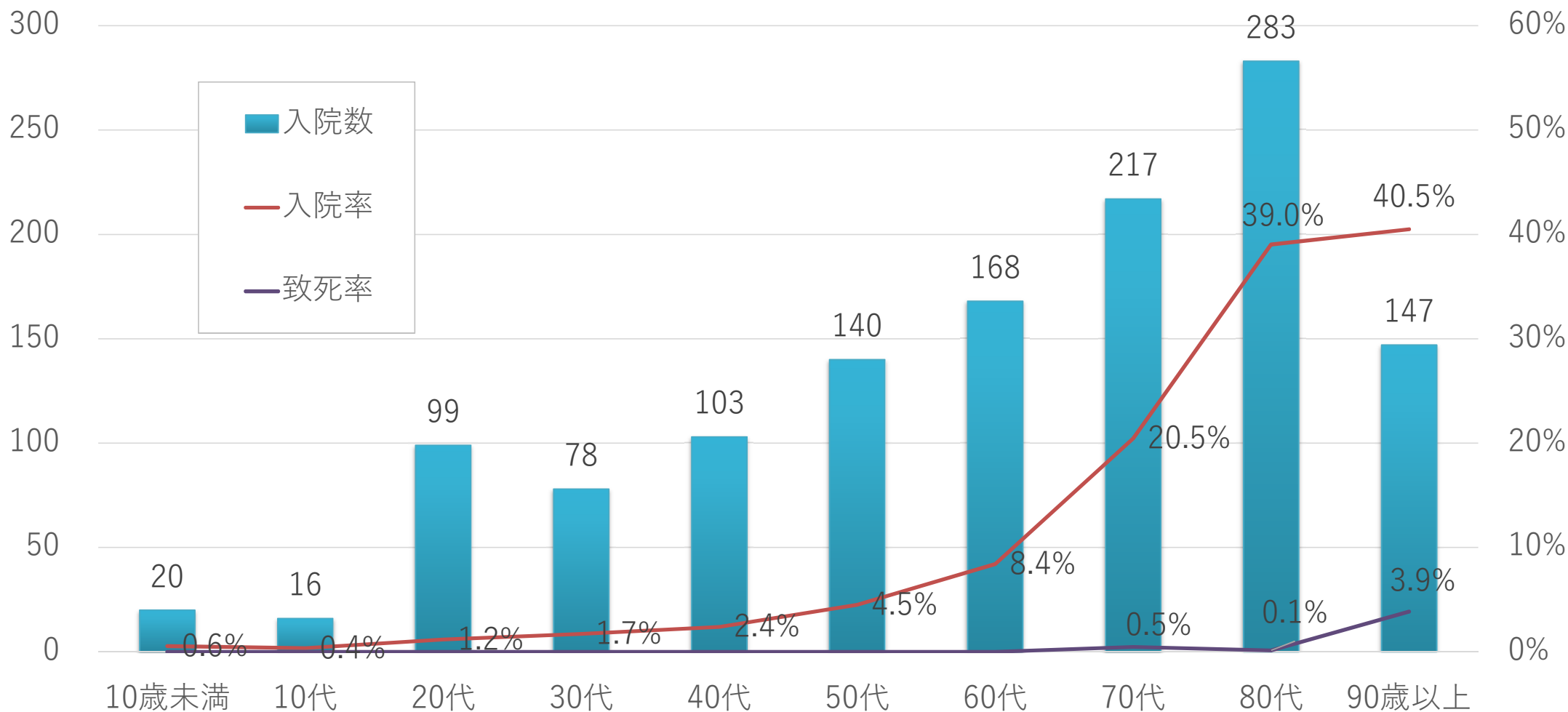


図9 年齢階級別にみる陽性者数（2021年8月、2022年1月）

各年齢階級における人口10万人あたり陽性者数、2021年8月に対する2022年1月の実数比

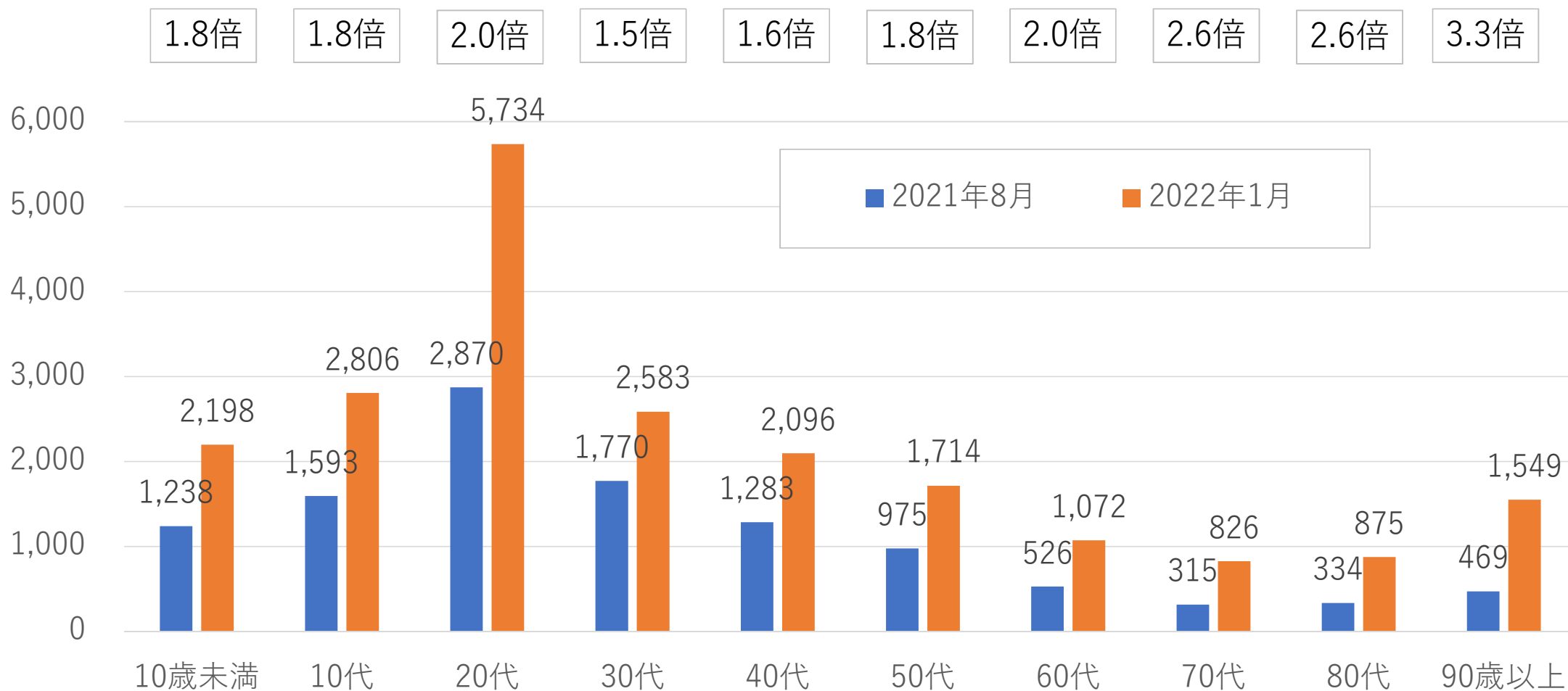


図10 都道府県別にみる 3 回目ワクチン接種率（65歳以上・2月8日時点）

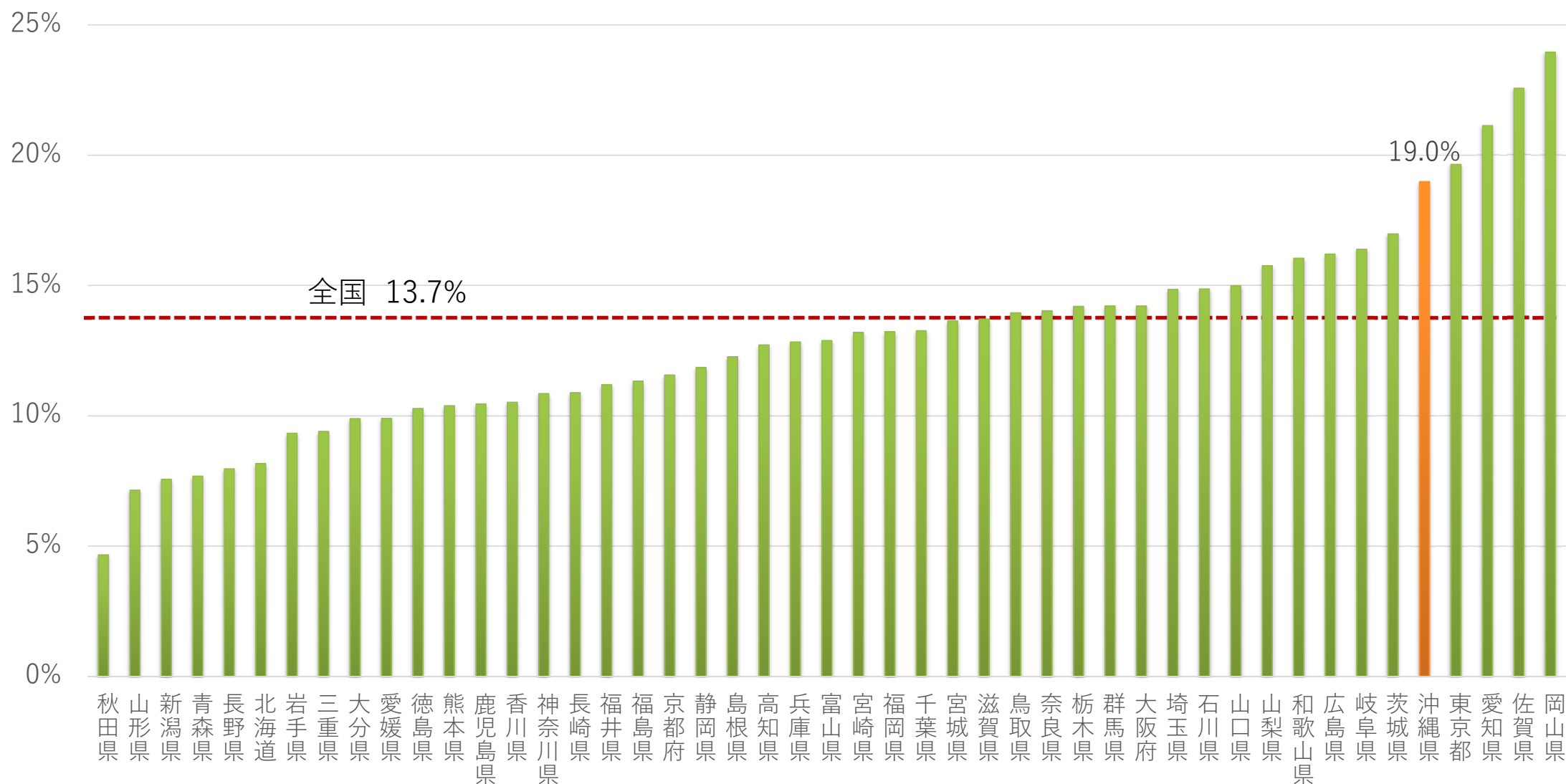


図11 今後1週間（2月14日-20日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）				入院患者数 ※				重症患者数 ※			
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	92	185	373	750	37	40	46	55	0.0	0.0	0.0	0.0
中部	693	1,395	2,809	5,657	78	94	119	161	0.6	0.7	0.7	0.7
那覇市	409	824	1,659	3,341	69	82	102	136	2.5	2.5	2.5	2.6
南部	556	1,120	2,255	4,542	62	75	97	133	0.0	0.0	0.0	0.1
宮古	72	145	292	588	19	22	28	36	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	91	183	369	742	10	11	13	17	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	1,913	3,852	7,757	15,621	276	325	405	539	3.2	3.2	3.3	3.4

※ 2月20日時点の見込み数

沖縄県疫学・統計解析委員会